

ゴミの堆積と植物保護

石 沢 進

野外観察に出かけて気にかかる人為作用に道路開設、ダム・スキー場・ゴルフ場の開発などに遭遇することがある。惨憺たる景観を眼前にしたとき、

貴重なものを失ったと残念に思われてならない。地域住民にとって将来にわたりほんとに必要なものであるのか疑問に思う。一度破壊した自然は、元の

姿には再現できないことを充分考え、一時的な豊かさだけを求める地域開発を避けてほしい。

道路沿いの除草剤の散布が広範に及んでいるのも気がかりである。人件費の高騰でやむえない面もあるが、新たな道路建設に使う費用を既存の道路の管理や維持に廻して安易な除草剤の散布を避けて頂きたいものである。

また、近年河川沿いや海岸の景観には、目を覆いたくなるような状況に遭遇する。それは河川沿いや海岸のゴミの堆積である。ビニール製品、発砲スチロールなど簡単に腐敗しない人造物が至るところに散在しているゴミの山である。

河川沿いや海岸には、周辺の植生とは異なった植物群落が発達している場合が普通である。その植物群落の上にゴミが堆積し、その発達が阻害されている。ゴミが散在する植物群落はみえて美しいものではない。30年くらい前の美しい河川、海岸に戻すことが出来ないかと思っている。大きなダム建設のための莫大な費用をゴミの回収や流水の浄化にまわしてほしい。例えば、既存のダムにゴミ収集や流水の浄化のための装置を設置するなど、その具体的な方策を検討して、新たにダムを建設して自然景観を大きく改変することのないよう切望する。

もはやゴミは大都市の社会問題だけでなく、山間の河川沿いまでに及び、ひどい状況になっている。そのために河川沿いの土砂の堆積地や中洲がゴミの山となり、植物の生長が抑えられていこともある。目に見えないが水に解ける有害物質も含まれていることも忘れてはならない。



信野川河畔のゴミの堆積 (1991. 10. 30)